

第2回 牧之原市水道事業審議会

次第

日時：令和8年5月28日(木) 午後2時

場所：牧之原市役所榛原庁舎4階会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

(1) 第1回審議会会議録の確認

(2) 経営戦略と料金改定について 資料1

4 そ の 他

5 閉 会

夢に乗るまち
牧之原

第2回 牧之原市水道事業審議会

経営戦略と料金改定について


RIDEON
MAKINOHARA



令和 8 年 5 月 28 日 (木)
牧之原市役所 建設部水道課

目 次

1	水道事業経営の基本原則	2
2	前回審議会の御意見等について	3
3	水道算定について	8
4	財政計画について	9

1 水道事業経営の基本原則

経済性

①効率的・合理的な経営

- ・適正な料金設定(原価主義)
- ・施設更新の最適化(アセットマネジメント)
- ・省エネ・省力化、DXによる効率化など

公共性

②安全・安定供給の確保

- ・安全な水の安定供給
- ・災害に強い水道など

独立 採算制

③独立採算制

- ・水道料金収入で事業費を賄う
- ・一般会計からの繰入れは最小限
- ・受益者負担の原則に基づく料金体系など

2 前回審議会のご意見等について

(1) 経費節減について

●収益的支出（職員で作業可能なものは極力職員で行い、委託費を抑制する）

年間抑制額12,800千円

①直接依頼による
水道料金検針
業務委託費の抑制



年間5,000千円

②職員による
窓口・料金徴収事務
業務委託費の抑制



年間5,000千円

③職員による
漏水調査の実施



年間2,800千円

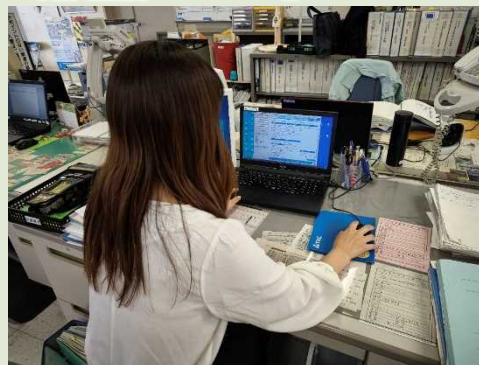
●資本的支出（広域化による共同発注、AI管路劣化診断を用いた漏水調査業務委託により支出を抑制）

①公営企業会計システムの共同調達（6,000千円）
共同で調達し購入費用を抑制



大井川圏域共同発注 1,500千円

②水道料金システムの共同調達（40,000千円）
共同で調達し購入費用を抑制



5市共同発注 10,000千円

③AI管路劣化診断を用いた漏水調査業務委託（12,397千円）
AI管路劣化診断を用いて漏水調査費用を抑制



40,000千円

総抑制額51,500千円

水道事業会計の仕組み

☆収益的収支

営業収益				営業外収益		
給水収益(水道料金)			手数料	預金利息	長期前受金戻入	雑収益
100						
営業費用				営業外費用		利益
人件費	受水費	減価償却費等(非現金支出)	その他経費(動力費・修繕費等)	借入金利息	その他	
80						20

毎年度蓄積されていく

利益があれば蓄積されていく

☆補てん財源

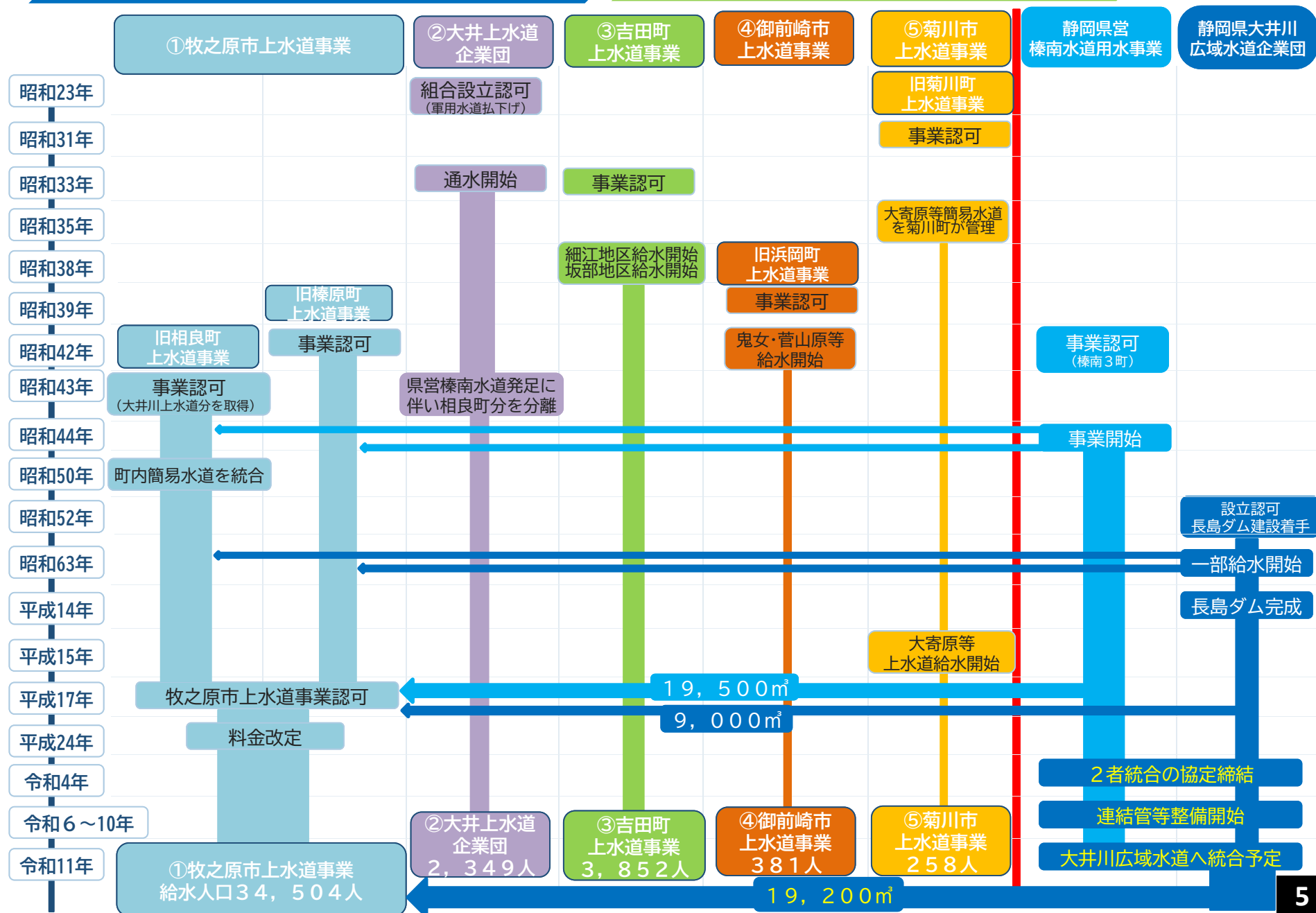
損益勘定留保資金	利益剰余金	
	積立金	利益剰余金

☆資本的収支(4条予算)

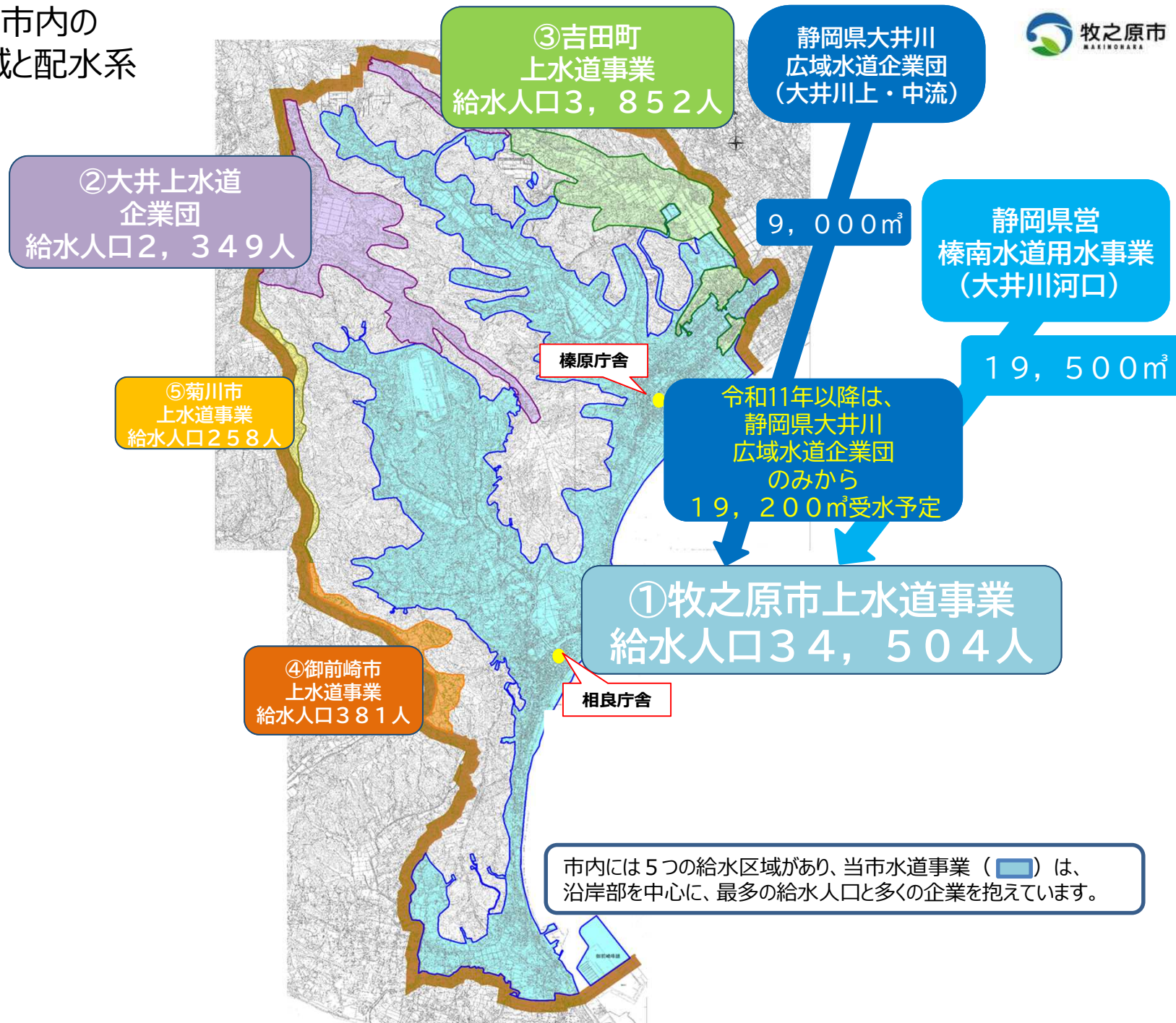
資本的収入					不足額の補填	30
70	借入金(企業債)	補助金	負担金	その他		
資本的支出						
100	人件費	施設の整備・管路の耐震化(工事請負費・委託料・備品購入費等)			借入金返済	

2 前回審議会のご意見等について

(2) 牧之原市水道事業の沿革



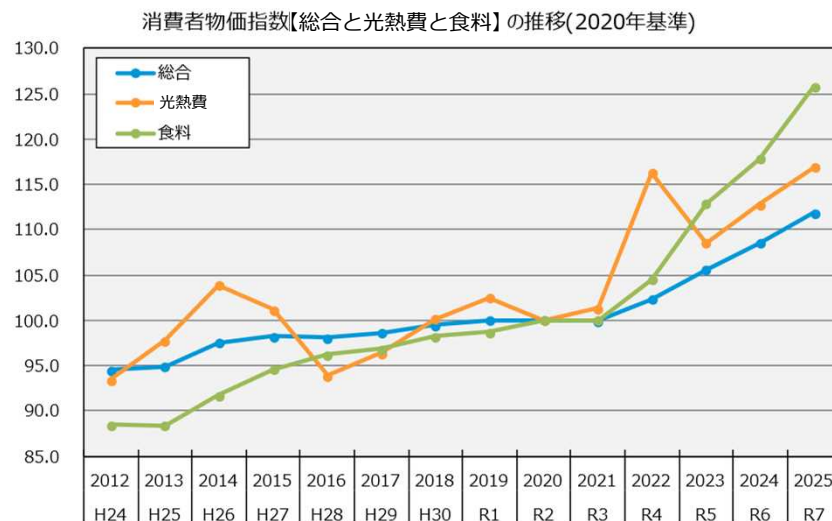
牧之原市内の 給水区域と配水系



2 前回審議会のご意見等について

(3) 物価等の推移

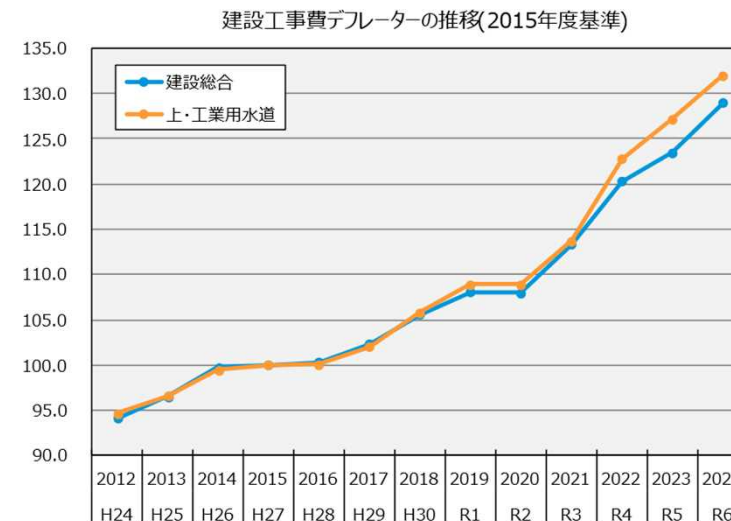
① 消費者物価指数【総合と光熱費・食料】の推移



※e-stat「2025年基準消費者物価指数 年報」より

※R4からR5に光熱費が減少したのは、国による激変緩和対策(R5.1月～R6.4月)の影響

② 建設工事費デフレーターの推移

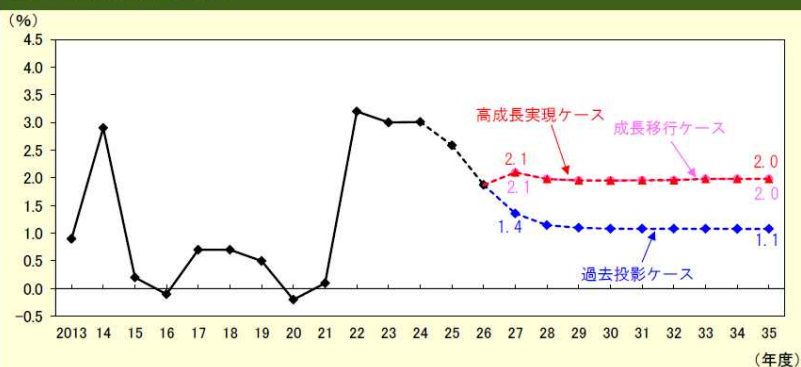


※国土交通省「建設工事デフレーター（令和8年3月31日付け）」より

※建設工事費デフレーター：建設工事にかかる工事費の変動を示す指数

③ 今後の消費者物価上昇率の見込み

図8：消費者物価上昇率



※内閣府「中長期の経済財政に関する試算(令和8年1月22日経済財政諮問会議提出)」より

※過去投影ケース：上昇率1%程度(直近の景気循環の平均)

※成長移行ケース：上昇率2%程度(過去40年平均)

※高成長実現ケース：上昇率2%程度(日本経済がデフレ状況に入る前の期間の平均)

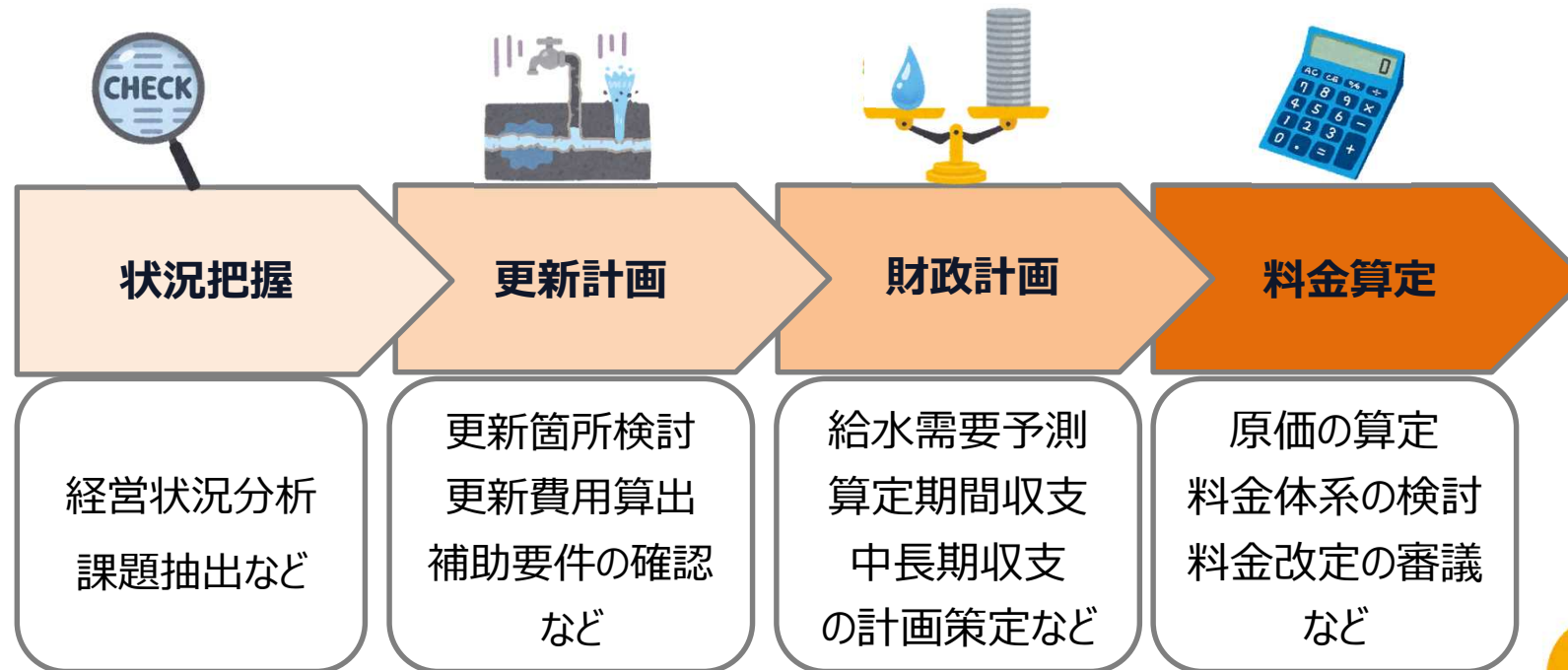
前回料金改定を行った平成24年度から令和7年度にかけて、消費者物価指数は総合で約18%、光熱費で約25%、食料で約42%の上昇となっている。

また、建設工事デフレーターは平成24年度から令和6年度にかけて、建設総合で約37%、上・工業用水道で約40%の上昇となっている。

本日審議いただきたい事項

- 料金改定の必要性について

3 水道料金算定について



4 財政計画について

(1) 現行料金の場合

単位：百万円

損益計算	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
収益合計 (A+B)	904	911	915	874	869	859	852	844	838	828	820	812
営業収益 (A)	858	840	873	831	826	817	810	803	798	789	781	775
うち水道料金	857	839	872	830	826	816	809	802	797	788	781	774
営業外収益 (B)	46	71	42	43	43	42	42	41	40	39	39	37
費用合計 (C)	907	925	927	944	936	935	929	911	913	911	912	911
営業費用 (D)	892	910	915	932	922	919	911	890	891	887	887	885
うち受水費	506	503	507	517	518	517	486	486	488	486	486	486
うち減価償却費等	257	255	259	255	257	261	262	261	260	257	256	253
営業外費用 (E)	15	15	12	12	14	16	18	21	22	24	25	26
うち支払利息	15	13	12	12	14	16	18	21	22	24	25	26
利益	▲3	▲14	▲11	▲69	▲66	▲75	▲77	▲67	▲75	▲83	▲91	▲99
建設工事に係る収支	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
収入	102	87	82	172	172	172	172	122	122	122	122	122
うち企業債借入金	90	30	73	160	160	160	160	110	110	110	110	110
うちその他収入	12	57	9	12	12	12	12	12	12	12	12	12
支出	371	253	366	519	525	507	505	502	508	511	513	510
うち工事に係る支出	175	67	153	330	330	330	330	230	230	230	230	230
うち借入元金償還金	133	122	123	102	99	98	95	94	93	91	89	86
工事収支不足額	▲268	▲166	▲283	▲347	▲352	▲335	▲333	▲380	▲386	▲389	▲390	▲388
資金フロー	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
年度末現金預金	1,006	969	919	806	690	596	505	367	223	74	▲76	▲226
当年度の増減額	▲34	▲37	▲50	▲113	▲116	▲94	▲91	▲138	▲144	▲149	▲150	▲150

4 財政計画について

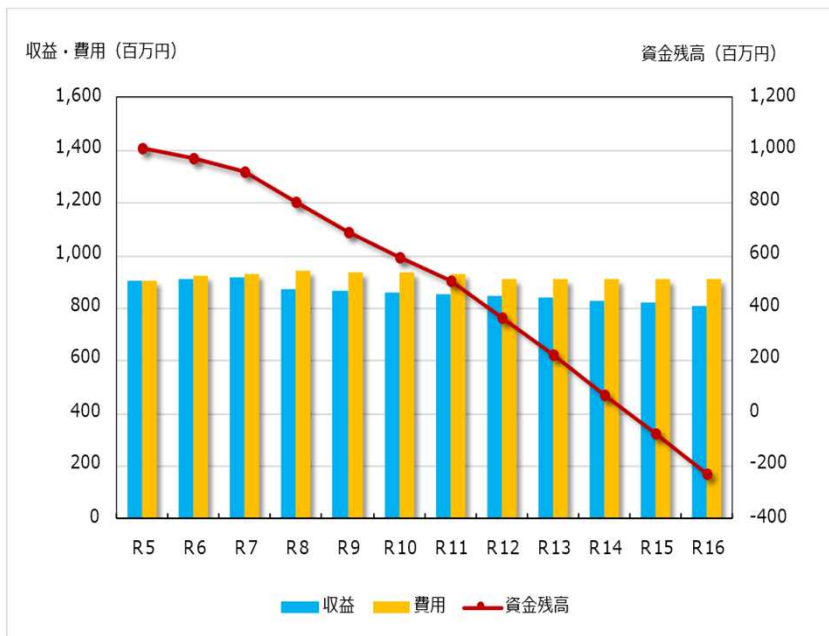
(2) 料金改定R9:20%・R14:10%の場合

単位：百万円

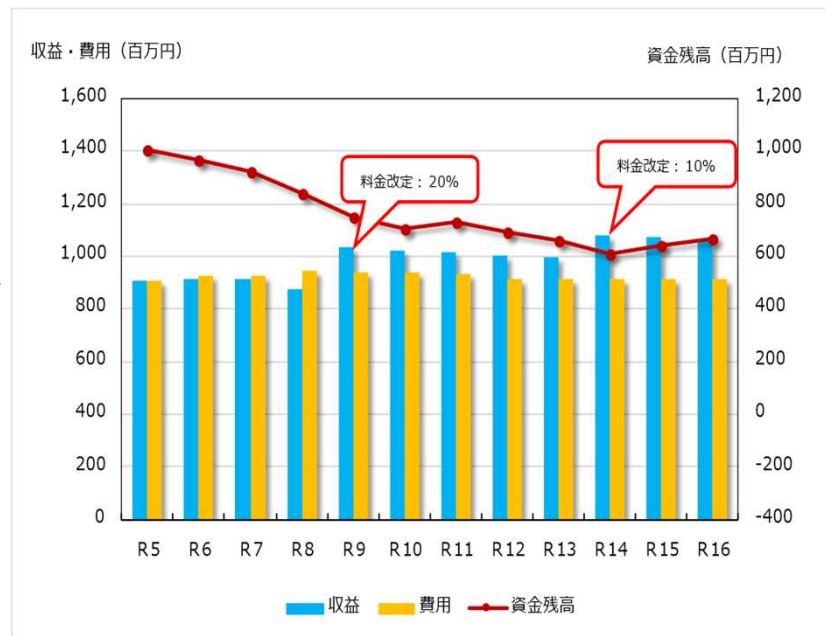
損益計算	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
収益合計 (A+B)	904	911	915	874	1,034	1,023	1,013	1,004	997	1,080	1,070	1,059
営業収益 (A)	858	840	873	831	991	981	971	963	957	1,041	1,031	1,022
うち水道料金	857	839	872	830	991	979	971	962	956	1,040	1,031	1,021
営業外収益 (B)	46	71	42	43	43	42	42	41	40	39	39	37
費用合計 (C)	907	925	927	944	936	936	931	914	916	915	916	915
営業費用 (D)	892	910	915	932	922	919	911	891	891	888	887	885
うち受水費	506	503	507	517	518	517	486	486	488	486	486	486
うち減価償却費等	257	255	259	255	257	261	262	261	260	257	256	253
営業外費用 (E)	15	15	12	12	14	17	20	23	25	27	29	30
うち支払利息	15	13	12	12	14	17	20	23	25	27	29	30
利益	▲3	▲14	▲11	▲69	98	86	82	90	80	165	154	144
建設工事に係る収支	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
収入	102	87	82	202	202	202	202	142	142	142	142	142
うち企業債借入金	90	30	73	190	190	190	190	130	130	130	130	130
うちその他収入	12	57	9	12	12	12	12	12	12	12	12	12
支出	371	253	366	519	525	507	505	502	508	512	514	513
うち工事に係る支出	175	67	153	330	330	330	330	230	230	230	230	230
うち借入元金償還金	133	122	123	102	99	98	95	94	93	92	91	89
工事収支不足額	▲268	▲166	▲283	▲317	▲322	▲305	▲303	▲360	▲366	▲370	▲372	▲371
資金フロー	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
年度末現金預金	1,006	969	919	836	750	702	728	693	660	611	643	665
当年度の増減額	▲34	▲37	▲50	▲83	▲86	▲48	26	▲35	▲33	▲49	32	22

4 財政計画について

現行料金の場合



料金改定した場合



令和7年2月に策定した「牧之原市水道事業 経営戦略」に基づくと、令和9年度に20%、令和14年度に10%の料金改定が必要となる見通しである。

料金改定を行うことで、建設事業計画を進めることができ、建設改良費不足分に充てる財源や資金繰りに必要な資金を確保できる。

次回の審議予定内容

- 建設更新計画の見通しについて
- 中・長期の財政計画の見通しについて
- 料金改定の詳細について